

食べる！見る！遊ぶ！

第2回メロン・スイカフェスティバル



スイカの早食いに挑む子どもたち



大盛況の即売会



つがるちゃんと触れ合う子どもたち



上) むいた皮の長さを競うメロン皮むき大会
右) スイカの重さを当てるゲーム。このスイカ(縞王)の重さはなんと15.11kg



「メロン・スイカフェスティバル」が8月10日、つがる地球村で行われ、市内外から約3000人が訪れ、旬の味覚を満喫しました。このイベントは、つがる市が全国有数のメロン、スイカの産地であることを市内外にPRしようと、つがるブランド推進会議が昨年引き続き開催。即売会には開場とともにたくさんの方が訪れ、甘さたっぷりのメロン、スイカを試食しながら買い求めていました。会場では、メロン・スイカの重さを当てるゲームや早食い大会、スイカマラソンなど多彩な催しも行われ、会場は大いに盛り上がりました。

また、北海道白老牛のバーベキュー、もりた保育園、よさこい知求群会、木造高校吹奏楽部のステージやJINK STYLEコンサートなども行われ、訪れた家族連れらは、楽しい1日を過ごしていました。



甘くてジューシーなメロンやスイカを味わう



スイカ、メロンの品種や栽培過程を紹介



好天の下、バーベキューを楽しむ来場者



築地市場でつがるブランドスイカをPR



市場関係者にスイカのおいしさをPRする福島市長ら

つがるブランド推進会議は8月3日、東京の築地市場内で仲卸業者を対象とした試食宣伝会を開催し、福島市長が市産スイカのトップセールスを行いました。これは、つがるブランド認定農産物の販路拡大を図ろうと、屏風山野菜生産組合（神成誠治組合長）と取引のある築地市場で新たな取り組みとして実施されたものです。

午前6時、1個8キ前後の「紅まくら」を食べやすい大きさにカットして市場内の一角に準備すると、業者が次々と試食し「うまい」の言葉を連発。福島市長が「今年は春先の低温で生産者は大変苦労しましたが、おいしいスイカに仕上がりました。屏風山のスイカをよろしくお祈りします」とあいさつすると「青森県がんばれ」と場内から拍手が湧き上がりました。

同会議では、このほか東京都内、名古屋市、西宮市内各地のスーパーで市産メロン、スイカなどの試食販売会を行い、つがるブランド農産物のおいしさをPRしました。

「一坪地主」がメロンの収穫を体験

つがるにしきた農協による「メロン一坪地主収穫体験ツアー」が8月5日から7日まで行われ、抽選で選ばれた首都圏からの19人がメロンの収穫と味覚を楽しみました。

5日、一行は、木造吹原地区の大澤稔さんのメロン畑を訪問。大澤さんが「低温の影響で生育が遅れ苦労したが、なんとか仕上がりました。小ぶりですが糖度は十分なので収穫を楽しんでください」とあいさつ。参加者は大澤さんから切り方を教わりながら食べ頃に育ったメロンを2個収穫し、試食用のタカミメロンを味わいました。東京都から参加した酒井美枝さんは「畑の広さとメロンの数にびっくりしました。メロン畑の中で食べる味は最高です」と笑顔で話していました。



メロンの収穫体験を楽しんだツアー参加者

鉢植えメロンを保育園児が収穫



4Hクラブのメンバーに教わりながらメロンを収穫する園児たち

イオンモールつがる柏で鉢植え栽培されていたメロンが収穫の時期を迎え、8月8日、いなほ保育園（倉内泰雄園長）の園児20人が収穫体験を行いました。これは、メロンの成長過程を多くの人に見てもらおうと、6月17日からつがる出張所前に設置されてきたもので、園児たちは栽培管理を担当した市農村青少年クラブ連絡協議会（4Hクラブ）の3人に教わりながら、はさみでメロンのつるを切り取って収穫を喜びました。

成田泰彰ちゃんは「うまくできて楽しかった。メロンはとても重かった」と笑顔をみせ、4Hクラブの大澤貴仁会長は「水管理、温度管理が一番苦労した。大変だったが子どもたちが楽しんでくれたので頑張った甲斐があった」と話していました。

バス市訪問団が市民との交流を深める 訪問団がつがる市にホームステイ



福島市長を訪問したバス市訪問団一行。
左端がマリ・エスコ副市長

7月25日から8月5日までの12日間、バス市訪問団7人がつがる市に滞在し、ホームステイや文化体験などを通して友好を深めました。31日、一行は福島市長を訪問。バス市のマリ・エスコ副市長が「つがる市の皆さんとお互いのことを理解し合いながら信頼関係を築くことができた。これからも交流を継続して、両市の絆がさらに強くなることを願います」とあいさつを述べ、お互いに記念品を交換しました。

滞在中は、木造中学校で模擬授業を体験したり、メロンの収穫体験やチェスボローカップ水泳駅伝にも参加。ホストファミリーらと相互理解を深めながら、つがる市の夏を満喫しました。



茶道体験を通して日本文化を学ぶ



木造高校で剣道を体験



木造中学校生徒と交流

姉妹都市の歴史や文化を学ぶ 北海道白老町との相互訪問

姉妹都市の北海道白老町の歴史や文化に触れる「白老歴史にふれる旅」に市内の小学5年生51人が8月7日から9日までの日程で参加し、姉妹都市について見聞を広めました。児童たちは、仙台藩元陣屋跡で白老町の歴史を学び、アイヌ民族博物館「ポロトコタン」でアイヌ舞踊やムックリ（口琴）作りなどアイヌ文化を体験。白老町の児童と一緒にゲームやバーベキューを行い、お互いの交流を深めました。

また、7月30日から8月1日まで白老町の小学校5、6年生6人がつがる市を訪れ、福島市長を表敬訪問し、縄文住居展示資料館「カルコ」やつがる地球村などを巡りながらつがる市について理解を深めていました。



アイヌ民族博物館を訪れたつがる市の児童

大舞台での抱負を語る

相撲 つがる相撲クラブ、柏小、木造中



つがる相撲クラブの選手たち

東北学童相撲大会（八幡平市）、全国都道府県中学校相撲選手権大会（両国国技館）、東北中学校相撲大会（郡山市）、全国中学校相撲選手権大会（岐阜県岐南町）へ出場するつがる相撲クラブの選手たちが県大会優勝報告と各大会に向けての意気込みを福島市長に語りました。選手を代表して越後谷知樹君（木造中3年）が「悔いのないよう力を出し切り優勝を目指します」と抱負を話しました。

バレーボール 稲垣少年クラブ

稲垣少年クラブが全日本バレーボール小学生大会県大会で3連覇を果たし、8月13日から東京体育館などで開催される全国大会出場を決めました。キャプテンの三上弘洋君（稲垣西小6年）は「力を合わせて1勝以上したい」と抱負を話しました。



稲垣少年クラブの選手たち

剣道 木造剣礼会



木造剣礼会の選手たち

木造剣礼会が全国道場少年剣道大会県予選会で第3位の成績を収め、7月30日、日本武道館で行われる全国大会に出場を決めました。作田大空君（柏小6年）らが葛西教育長に「皆で力を合わせて頑張ります」と意気込みを語りました。

稲垣中学校女子バレーボール部



稲垣中学校女子バレーボール部の選手たち

稲垣中学校女子バレーボール部が東北中学校バレーボール大会（8月8、9日、一関市）で第3位の成績を収め、8月18日から岡崎市で開催される全国大会に出場します。キャプテンの常川葵さん（3年）は「今までやってきたことをすべて出し切る」と力強く話しました。

卓球 中川舞香さん（木造中2年）



福島市長に抱負を語る中川さん

木造中学校2年の中川舞香さんが東北中学校卓球大会で優勝し、8月17日から岐阜市で行われる全国大会に出場します。中川さんは「粘って勝つのが自分の強み。全国では気持ちで負けないよう頑張る」と話しました。